

# § 5. 和空間と直和

輪講 #3

2025-02-24

# 可換な行列による部分空間

---

**定理:**  $A \in M_n$  について,  $C(A) = \{X \in M_n \mid XA = AX\}$  はベクトル空間  $M_n$  の部分空間をなす. ただし, 和とスカラー倍は自然に定まるものとする.

**Proof:**  $O$  を含むことと, 和とスカラー倍で閉じていることを示す.

- $OA = AO = O$  より  $O \in C(A)$ .
- $X, Y \in C(A)$  ならば,  $(X + Y)A = XA + YA = AX + AY = A(X + Y)$  より  $X + Y \in C(A)$ .
- $X \in C(A)$  ならば,  $(cX)A = A(cX)$  より  $cX \in C(A)$ .

□

**Remark**  $C(A)$  は (群としての)  $M_n$  の部分群となり, **中心化群**と呼ばれる.

**Question**  $C(A)$  の次元はいくつになるだろうか?

**Motivation**  $A$  を簡単な標準形にしたい.

- $A$  の相似変換に対して  $C(A)$  が不変, つまり  $C(A) = C(P^{-1}AP)$  ならよいが, そうではない……
- 実際,  $XA = AX \Leftrightarrow \textcolor{red}{PXP^{-1}}\textcolor{blue}{PAP^{-1}} = \textcolor{blue}{PAP^{-1}}\textcolor{red}{PXP^{-1}}$ .
- 不変ではないけれど, 線形同型写像  $F : X \mapsto PXP^{-1}$  を考えられる!

**定理:** 正方行列  $A, B$  が相似なら,  $C(A) \simeq C(B)$ . 特に  $\dim C(A) = \dim C(B)$ .

**Proof:**  $B = P^{-1}AP$  となるような正則行列  $P$  をとれる.

線形同型写像  $F : C(A) \ni X \mapsto PXP^{-1} \in C(B)$  が存在する. □

**Remark** 有限次元なら,  $V \simeq W \Leftrightarrow \dim V = \dim W$ .

- したがって,  $A$  を初めから Jordan 標準形として考えてよい.
- $A$  が対角化可能という条件付きでさらに考察してみよう.

- 始めから  $A = \text{diag}(\lambda_1, \dots, \lambda_n)$  としてよい.
- $f(X) = XA - AX$  として,  $C(A) = \text{Ker } f$ .
  - ▶ 特に  $C(A)$  が部分空間であることがただちにわかる.
- $f(E_{ij}) = (\lambda_j - \lambda_i)E_{ij}$ . つまり,  $E_{ij}$  は固有値  $\lambda_j - \lambda_i$  の固有ベクトル.
- $C(A) = \text{Ker } f$  は  $f$  の固有値 0 の固有空間に等しい.
  - ▶  $\dim C(A) = \#\{(i, j) \mid \lambda_i = \lambda_j\}$ .

**定理:** 対角化可能な正方行列  $A$  の**相異なる**固有値を  $\mu_1, \dots, \mu_s$  とし, それぞれの重複度を  $m_1, \dots, m_s$  とする. このとき,  $\dim C(A) = \sum_{i=1}^s (m_i)^2$ .

**Example:**

$$A = \begin{pmatrix} 8 & -9 & -2 \\ 6 & -7 & -2 \\ -6 & 9 & 4 \end{pmatrix} \xrightarrow[\sim]{\text{diagonalize}} D = \left( \begin{array}{c|cc} 1 & & \\ \hline & 2 & \\ & & 2 \end{array} \right).$$

したがって,  $\dim C(A) = \dim C(D) = 1^2 + 2^2 = 5$ .

実際,  $D$  と可換な行列  $X$  は次のような形をしているハズである:

$$X = \left( \begin{array}{c|cc} * & & \\ \hline & * & * \\ & * & * \end{array} \right).$$

# 本編

---

- $V : \mathbb{C}$  上のベクトル空間.
- $W_1, \dots, W_m : V$  の部分空間.

**定理 5.1:** 和空間  $W_1 + \dots + W_m := \{x_1 + \dots + x_m \mid x_j \in W_j\}$  は  $V$  の部分空間.

**定義 5.1:** 任意の  $x \in W_1 + \dots + W_m$  が

$$x = x_1 + \dots + x_m \quad (x_j \in W_j)$$

と一意的に表されるとき,

$$W_1 + \dots + W_m = W_1 \oplus \dots \oplus W_m$$

と表し,  $W_1 + \dots + W_m$  は  $W_1, \dots, W_m$  の**直和**であるという.



# 直和の特徴付け

**定理 5.2:** 次の 1 ~ 4 は互いに同値.

1.  $W_1 + \cdots + W_m$  は  $W_1, \dots, W_m$  の直和.
2.  $x_1 \in W_1, \dots, x_m \in W_m$  に対して  $x_1 + \cdots + x_m = 0$  ならば,  $x_1 = \cdots = x_m = 0$ .
3.  $x_1 \in W_1 \setminus \{0\}, \dots, x_m \in W_m \setminus \{0\}$  とすると,  $x_1, \dots, x_m$  は一次独立.
4. 各  $j = 2, \dots, m$  に対して,  $(W_1 + \cdots + W_{j-1}) \cap W_j = \{0\}$ .

**Proof:**  $1 \Rightarrow 2, 2 \Rightarrow 3$  は明らか.  $3 \Rightarrow 4$  は対偶が簡単に従う.  $4 \Rightarrow 1$  を示

す.  $w \in W_1 + \cdots + W_m$  に対して,  $w = \sum_j x_j = \sum_j y_j (x_j, y_j \in W_j)$  とすると,  $z_j = x_j - y_j \in W_j$  として  $\sum_{j < m} z_j = -z_m$  だが, 4 の主張よりその両辺は 0 に等しい. これを繰り返すことで  $\forall j, z_j = 0$  となり,  $w$  の分解の一意性が従う. □

# 部分空間に対する次元定理

**定理 5.3:**  $\dim(W_1 + W_2) = \dim W_1 + \dim W_2 - \dim(W_1 \cap W_2)$ .

**Proof:**  $n_0 = \dim(W_1 \cap W_2)$  とし,  $W_1 \cap W_2$  の基底  $z_1, \dots, z_{n_0}$  をとる. これを延長することで, 次のように基底をとることができる:

- $W_1$  の基底  $z_1, \dots, z_{n_0}, x_{n_0+1}, \dots, x_{n_1}$ . ただし,  $n_1 = \dim W_1$ .
- $W_2$  の基底  $z_1, \dots, z_{n_0}, y_{n_0+1}, \dots, y_{n_2}$ . ただし,  $n_2 = \dim W_2$ .

**Claim**  $z_1, \dots, z_{n_0}, x_{n_0+1}, \dots, x_{n_1}, y_{n_0+1}, \dots, y_{n_2}$  は  $W_1 + W_2$  の基底をなす.

**Proof:**  $w_1 + w_2 \in W_1 + W_2$  に対して,

- $w_1 = c_1 z_1 + \dots + c_{n_0} z_{n_0} + c_{n_0+1} x_{n_0+1} + \dots + c_{n_1} x_{n_1}$
- $w_2 = d_1 z_1 + \dots + d_{n_0} z_{n_0} + d_{n_0+1} y_{n_0+1} + \dots + d_{n_2} y_{n_2}$

なる  $(c_i)_i, (d_i)_i$  が一意に存在するから, 次の分解も一意的:

$$w_1 + w_2 = \sum_{i \leq n_0} (c_i + d_i) z_i + \sum_{n_0 < i \leq n_1} c_i x_i + \sum_{n_0 < i \leq n_2} d_i y_i.$$

## 部分空間に対する次元定理（より一般の場合）

**定理 5.4:**  $\dim(W_1 + \cdots + W_m) = \sum_{j=1}^m \dim W_j - \sum_{j=2}^m \dim((W_1 + \cdots + W_{j-1}) \cap W_j).$

**Example:**

$$\begin{aligned} \dim(W_1 + W_2 + W_3) &= \dim W_1 + \dim W_2 + \dim W_3 \\ &\quad - \dim(W_1 \cap W_2) - \dim((W_1 + W_2) \cap W_3). \end{aligned}$$

**Proof:**  $m$  に関する帰納法. 簡単なので略.

□